順位	氏名（議席）	発　言　の　要　旨	答　弁　者
9	小野　泰正（６）	１．富士市立中央病院における医療ＤＸの推進について 　近年の全国的な医療ＤＸの取組では、デジタル技術を使い地域医療連携や包括ケアシステムを構築している名寄市の先駆的事例がある一方、遠隔診療等に制限があるなどの問題や財源の問題などで、富士市立中央病院では一部導入はしているが、なかなか導入が進まないとの課題があります。一方、厚生労働省からは令和５年６月２日に医療ＤＸの推進についての工程表が出され、①国民の更なる健康促進、②切れ目なくより質の高い医療の効率的な提供、③医療機関等の業務効率化、④システム人材等の有効活用、⑤医療情報の二次利用の環境整備を目指し、令和６年度内に全国医療情報プラットフォームの構築をし、令和７年度に運用開始、令和８年度に本格実施と示されております。さらに、令和６年２月14日に診療報酬の加算項目に医療ＤＸの推進による加算項目が新設され、医療ＤＸ推進体制整備加算により、マイナ保険証の活用、電子処方箋及び電子カルテ情報共有サービスの整備促進や、在宅医療ＤＸ推進体制加算により、マイナ保険証による情報を用いた訪問診療計画の立案による質の高い在宅診療を推進、在宅医療におけるＩＣＴを用いた医療関係職種・介護関係職種との連携の推進、働き方改革も踏まえ、特定集中治療室（ＩＣＵ）管理料の見直し及び遠隔ＩＣＵ加算の新設等、多岐にわたる加算項目が新設されました。 　市民サービスの向上や医療圏連携による質の向上だけでなく、基本的に独立採算が求められている中央病院の経営のためにも、地域に根差した医療ＤＸの推進を行っていくべき時期であると考え、以下質問する。 (1) 現状の中央病院を中心とした医療ＤＸの状況と、現状では、どのような加算項目を得ることができるか。 (2) 先進的な遠隔診療や遠隔ＩＣＵ加算など、中央病院が保有している手術支援ロボット、ダヴィンチ等をより高度に活用することや、現在行っている地域連携をさらに進めるような加算項目も新設されているが、中央病院の目指す医療ＤＸの未来像はどのようなものなのか。 (3) デジタル田園都市国家構想の推進等、様々な助成を取り入れた医療圏全体の取組として行っていかなくてはいけないと考えるが、財源を含め、どのような推進体制で取り組んでいくのか。	市　　長 及　び 担 当 部 長